

育成！ ふるさと小浜 デザイン



人を育て、新時代のまちをデザインする 松崎市政 4 期目がスタート

任期満了に伴う小浜市長選挙が、7 月 12 日に告示され、無所属で現職の松崎晃治氏（62 歳・生玉）が、無投票で再選を果たしました。「育成！ふるさと小浜デザイン」をスローガンに、北陸新幹線の全線開業により飛躍する「新生小浜市」の発展を見据えた地域力と“人”の育成を掲げる松崎市長に、4 期目にかかる思いを聞きました。

「いよいよ 4 期目が始まりました。意気込みを聞かせてください。」

これまで小浜市長として 3 期 12 年間、私の大好きな小浜市をさらに良くしたいという強い思いを持って務めてまいりました。

小浜市の地域資源の研ぎあげに取り組んできた中で、改めてポテンシャル（潜在能力）の高いまちであると認識しているところです。

4 期目で取り組む課題と施策については、「育成！ふるさと小浜デザイン」をスローガンに掲げ、本市のポテンシャルを生かしたまちづくりを進めていきます。

「4 期目の公約には「6 つの柱」を掲げておられます。それぞれについて教えてください。」

【1 つ目の柱】

企業誘致の推進、稼げる農林漁業の実現など、産業基盤の育成・強化により、さらなる地域の雇用力、生産力の向上を目指す取り組み

本市で豊かな暮らしを送るためにも、雇用環境・就業環境などを整えることは、とても重要な取り組みです。これまでの 3 期に引き続き、



サバ養殖の現場では、さまざまな最先技術を導入し、着実に成果を上げている

企業誘致や創業支援をはじめ、市内事業者の課題である事業継承にも力点を置くなど、市内事業者の経営基盤の強化、雇用力の向上により、地域全体の産業・商業のレベルアップに取り組んでいきたいと考えています。

また、サバの養殖や農地集約など、本市の「食」を支える 1 次産業分野に先端技術を積極導入し、スマートな、もうかる 1 次産業の実現に取り組んでいきたいと考えています。

近年増えつつある U ターン・I ターンなどの移住希望者にとって魅力となる地域づくりや、就業環境の整備など、これまで研いできた小浜の産業基盤のさらなる育成に取り組んでいきたいと考えています。

さらに、新型コロナウイルスの感染拡大による新しい生活様式が実践される中、リモートワークやサテライトオフィスなど企業の働き方も大きく変化しており、都市部から地方への分散化なども見据え、本市においてもウイズコロナ、アフターコロナ時代に対応した各種支援のほか、通信インフラの整備など、新たな働き方の実現に向けた環境を整える必要があると考えています。

【2 つ目の柱】

地域資源を連携・融合させ、魅力を最大限に引き出し、交流人口の拡大や観光消費の獲得につなげる

特に、2 年半後に迫る北陸新幹線敦賀開業に向けて、「敦賀開業アクションプラン」を策定し、着実に取り組んでいるところですが、本市のポテンシャルを生かすためにも、今後、文化と観光を融合させた施策展開が重要と捉えており、道の駅・まちの駅・海の駅の 3 駅に JR 小浜駅を加えた 4 駅を連携させた歴史と文化が見える観光ゾーンの創出に取り組んでいきたいと考えています。



また、本市には素晴らしい文化財、文化的資産が数多くありますが、その多くは現在、個人が所有・管理しており、将来にわたる維持管理が課題となっています。これらの文化財や文化的資産を組織的に管理し、観光資源として活用する仕組みづくりを進めることで、文化財の保存にかかる諸課題の解決を図りたいと考えています。

こうした取り組みを通じて、来るべき敦賀開業に向け、「観光の目的地」として全国に強く発信し、交流人口ならびに観光消費の拡大を実現したいと考えています。

【3 つ目の柱】

少子化対策ならびにこれからの小浜を担う子どもたちの良好な教育環境の実現

子育て支援に関しては、保育園・認定こども園などの保育サービスの実施はもとより、親子交流や子育て相談などのサポートを実施している子育て支援センターの相談窓口機能の強化を図るなど、安心して育てられる環境を確保してまいります。

また、教育の取り組みでは、小・中・高校の成長ステージに合わせたふるさと学習の実施や地域探究活動へのサポートを通じて、郷土愛の醸成に取り組むとともに、子どもたちが地元企業やしごとを知る機会を作るなど、産業分野と教育分野が連携したキャリア教育の推進に取り組んでいきます。

さらに、近年急速に進む ICT（情報通信技術）に対応できる人材育成も大変重要であることから、タブレット端末などの ICT 機器を活用した教育を推進し、これからの時代に活躍できる人材育成に取り組んでまいります。

【5 つ目の柱】

市民生活に密接な関係がある地域防災力の向上や保健医療の充実など、安全・安心な市民生活に関する取り組み

防災関係については、迅速かつ適切な避難指示、災害情報の広報のほか、避難所施設・備蓄物の整備など、市が行う「公助」の取り組みを進めるとともに、「自助」「共助」の機運を醸成し、さらなる地域防災力の向上に取り組んでいきます。

健康保健の取り組みとして、現在、令和 5 年春の供用開始を目指して、小浜市健康管理センターの建て替えを進めているところです。



建て替え予定の健康管理センター。新施設では健康増進の機能集約で全世代をサポート

保健センター、子育て支援センター、介護予防施設の機能を集約

【4 つ目の柱】

新型コロナウイルス感染症対策

ご承知のとおり、年明けから感染拡大した新型コロナウイルスは、全世界に拡大し、我が国においても数多くの感染者と死者を招き、国および県から緊急事態宣言が発せられる未曾有の事態となっています。

ウィズコロナ、アフターコロナの時代を見据え、各種行政サービスの継続を図るため、引き続き徹底した公共施設の感染症対策に取り組んでいきます。

多くの観光関連産業が集積している本市は、新型コロナウイルス感染拡大による経済的なダメージはこれまでに経験をしたことがないぐらい大きなものであり、失った経済の回復に向けて市民一丸となつて知恵を絞り、乗り越えなければならぬと考えております。

本市では、市民の皆様、事業者の皆様との協力を得て、地域経済の復活に向けた「おばまちケット」の企画のほか、市独自の事業所支援制度など、独自施策を実施しており、引き続き市内経済の回復に向けて取り組んでまいります。

した、新・健康管理センターとしてリニューアルし、全世代の小浜市民の健康増進拠点として機能させてまいります。

【6 つ目の柱】

主に市行政が取り組むべき事項

北陸新幹線小浜・京都ルートの決定は、将来における本市のまちづくりに大きな影響を与えることから、あらゆる英知を集め、夢のある、明るい小浜のまちの実現に向け、その先鞭をつけることが我々の責務であると強く認識しています。

特に、小浜新幹線駅周辺の整備については、今後の小浜市の発展を左右する重要な取り組みであることから、類似都市の調査を重ねるとともに、『新生小浜市』としてふさわしい『ふるさと小浜のデザイン』を描いていきたいと考えています。

これらのまちづくりを進めるためにも、市民の皆様とともに協働のまちづくりをさらに加速させるため、コミュニティ活動を活性化させていくことが大切であると考えています。

一方、市民生活を支える公共施設である、ごみ焼却場や斎場の広

市長公約「6 つの柱」の主な内容

1. 雇用力、生産力の向上

- ・企業誘致の推進
- ・稼げる農林漁業
- ・創業・事業継承を支援
- ・移住希望者にとって魅力的な地域づくり
- ・新型コロナに対応した新たな働き方

4. 新型コロナウイルス対策

- ・徹底した感染症対策
- ・各種行政サービスの継続
- ・失った市内経済の回復
- ・事業者などと連携した市独自の施策

2. 交流人口と観光消費の拡大

- ・4 駅（道の駅・まちの駅・海の駅・JR 小浜駅）が連携した、歴史・文化が見える観光
- ・文化的資産を観光や経済資源に活用
- ・小浜を観光の目的地に

5. 安全・安心な市民生活

- ・迅速かつ適切な避難指示
- ・「自助」「共助」の機運醸成
- ・避難所施設・備蓄物の整備
- ・小浜市健康管理センターの建て替えによる全世代の市民の健康増進拠点化

3. 少子化対策と教育

- ・保育サービスの充実
- ・子育て支援センターの機能拡充
- ・子どもたちが地元企業を知るキャリア教育
- ・ICT（情報通信技術）機器を活用した教育を推進

6. 新生小浜市の実現

- ・新幹線駅周辺の整備
- ・協働のまちづくりの推進によるコミュニティ活動
- ・ごみ焼却場や斎場の早期広域化
- ・人工知能（AI）や ICT の導入

プロフィール



松崎 晃治（まつざき こうじ）

昭和 33 年小浜市生まれ。県教職員として小中学校の教壇に立った後、県教育研究所、若狭教育事務所に勤務。平成 7 年、県議会議員選挙に出馬し初当選を果たすと、17 年には第 87 代県議会議長に就任。20 年に小浜市長選挙に立候補し、当選。3 期 12 年を務める。小浜生玉在住。

域化のほか、人工知能（AI）や ICT 技術の導入など、さまざまな行政課題に対応していくため、持続的な財政運営に努めてまいります。

― 最後にあらためて、4 期目の抱負を聞かせてください。 ―

ここからスタートする 4 期目では、新幹線全線開業により新次元へと飛躍する小浜の発展を見据え、小浜が持つ、失ってはならない豊かな自然、歴史、文化、食、産業、そしてそこで育まれた穏やかな人

柄・気質の市民を含め、引き続き小浜の地域資源を守ってまいります。

同時に、これらを活用した地域内経済循環を牽引する基盤産業とその担い手の育成をはじめ、市内各地区、各集落の地域づくりを担うまちづくり協議会など地域力の育成、そしてこれらの源となる「人」の育成に取り組みながら、新技術などをスマートに取り入れた新時代のふるさと小浜をデザインしていきたいと考えています。